



昭和36(1961)年発掘作業

アキシマクジラの化石
 昭和36(1961)年8月20日に八高線多摩川鉄橋付近の河川敷で発見されました。それ以来、昭島市民くじら祭が毎年開催されるほか、マンホールの蓋の絵柄になるなど、半世紀にわたり昭島市民に愛され続けてきました。
 アキシマクジラの化石は、約200万年前のものです。その当時の昭島は海で、クジラが泳いでいたということが分かります。
 発見から約1年かけて、つなぎ合わせなどの復元作業を終え、昭和39(1964)年から国立科学博物館の新宿分館で調査・保管されてきました。しかし、現在のようにインターネットなどもなく、研究が進みませんでした。



昭和48(1973)年 第1回市民納涼の集い(後の昭島市民くじら祭)

その後、平成24年3月から群馬県立自然史博物館に移送され、研究が進められました。そして、平成30年1月1日、日本古生物学学会誌に「これまで世界で知られていなかったクジラの新種」とする論文が掲載されるとともに、学名(エスワリクティウスアキシマエンス)が付与され、学術的にも貴重な標本となりました。
 これを受け、後世に継承すべき重要な化石標本として、天然記念物に指定しました。今後も、市民の宝、市のシンボルとして愛されていくでしょう。

天然記念物に指定 アキシマクジラ化石標本



2020年3月開設の教育福祉総合センターに、実物の化石の一部が展示されます。



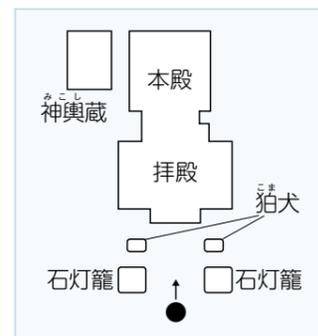
有形文化財(建造物)に指定 中神・熊野神社本殿及び拝殿



中神の獅子舞



▲所在地(最寄りのバス停は立川バス「中神」停留所)



▲見取り図(上の写真は●の位置から撮影)

中神・熊野神社
 中神・熊野神社(中神町1-12-7)は、延文5(1360)年、紀伊国(現在の和歌山県)の熊野神社の本宮を分霊して開創されたと伝えられています。かつては「熊野大権現」や「熊野大神」と称していました。明治29(1896)年に「中神熊野神社」と改め、今日に至ります。
 拝殿は、嘉永5(1852)年、中神村の中野久次郎(通称 中久大尽)が中心となって再建したものです。また、本殿は、それ以前の江戸中期

から後期に遡る建造物とみられます。いずれも、後世に修復された跡がありますが、東京都指定無形民俗文化財「中神の獅子舞」の伝承地であり、地域住民に親しまれている伝統的な文化遺産でもあるため、有形文化財(建造物)に指定しました。将来にわたって保存、保護、活用していきます。
 なお、今年の中神の獅子舞の奉納は、4月6日(土)・7日(日)です。詳しくは、「広報あきしま」3月15日号に掲載します。

平成31年1月17日、市教育委員会は、中神・熊野神社本殿及び拝殿を有形文化財(建造物)に、アキシマクジラ化石標本を天然記念物に指定しました。☆詳しくは、文化財担当へ。

市文化財に指定 2件

21年ぶり!